

目 次

第42回日本脂質生化学研究会・研究集会のお知らせ	1
平成12年度日本脂質生化学研究会総会のお知らせ	3
第42回研究集会発表演題の募集	5
第42回日本脂質生化学研究会・研究集会宿泊のご案内	9
今井 陽先生を偲んで	13
石橋輝雄	
第42回日本脂質生化学研究会・研究集会を企画するにあたって	15
古賀洋介	
第41回日本脂質生化学研究会・研究集会を主催して	16
玉井洋一	
脂質生化学研究会に入会した頃	18
山下 哲	
愚直な研究を振り返る	20
小野輝夫	
第40回 国際脂質生化学会議 (ICBL) に参加して	22
岩森正男	
第41回 国際脂質生化学会議 (ICBL) のお知らせ	25
血小板活性化因子 (PAF) とその他の脂質メディエーターに関する第7回 国際会議のお知らせ	29
第4回国際脂肪酸・脂質学会 (ISSFAL 2000) のお知らせ	31
会の活動状況	32
会則	40

第42回 日本脂質生化学研究会・研究集会のお知らせ

- 期日 : 2000年6月16日(金)・17日(土)
- 会場 : 北九州国際会議場
〒802-0001 北九州市小倉北区浅野 3-9-30
Tel : 093-541-5931 Fax : 093-541-5928
- 実行委員長 : 古賀洋介 産業医科大学医学部生体物質化学
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1
Tel : 093-691-7215 Fax : 093-693-9921
E-mail : kogay@med.uoeh-u.ac.jp
- ホームページ : <http://nqube.health.uoeh-u.ac.jp/jcb142>
- 発表形式 : すべて口頭発表
A 講演 : 発表 15 分 + 討論 5 分 = 20 分
B 講演 : 発表 10 分 + 討論 5 分 = 15 分
講演時間は変更することもあります。
すべてスライドを使います。
- シンポジウム : 「20 世紀の脂質生化学研究の到達点」
- 懇親会 : 北九州国際会議場イベントホール
6月16日 18:30 から 参加費 : 5,000 円(学生 3,000 円)
当日は先着順に受け付けます。
- 演題申込締切 : 3月31日(金) 5～8 頁をご参照ください。
- 事前参加申込締切 : 5月12日(金) (5 月下旬に参加章を送付します)
参加登録費、懇親会費はできるだけ事前にお申し込みください。
同封の振替用紙をご利用ください。
名誉会員、賛助会員の皆様には別途ご案内申し上げます。
- 集会参加登録費 : 事前参加登録費 一般 5,000 円 学生 3,000 円
当日参加登録費 一般 6,000 円 学生 4,000 円
(非会員で参加される場合要旨集代を別途申し受けます)
- 宿泊関係 : 宿泊の予約をご希望の方は、JTB 北九州支店が取り扱います
(9 頁)。共済組合等の公共宿泊施設は各自でお申し込みください。
- 会場への交通 : 新幹線小倉駅下車徒歩 5 分。福岡空港より小倉駅まで
高速バスで 1 時間 32 分(詳細は 4 頁)。

第42回 日本脂質生化学研究会・研究集会 シンポジウムのお知らせ

シンポジウム：6月16日(金)
「20世紀の脂質生化学研究の到達点」

20世紀最後の年である今年、日本脂質生化学研究会も第42回を迎え、約半世紀に近づきます。この間の脂質生化学研究は多岐にわたり、脂質の種類としてはリン脂質、糖脂質、中性脂質、対象の生物としてはヒト、動物、植物、微生物、研究方法としては構造決定から生合成、酵素、遺伝子レベル、生理活性におよび、研究者の所属分野も医学、薬学、理学、農学などまで広がってきました。それだけに同じ脂質生化学研究会の会員でも互いに縁遠い部分ができきていることも否めません。この際、20世紀の脂質生化学研究の到達点を確認し、脂質生化学研究会会員の共通認識を新たに作る機会としてこのシンポジウムを企画いたしました。会員各位多数のご参加をお待ちしております。講演時間は討論時間を含めて一演題35分の予定です。

1. 糖脂質糖鎖の発現制御
理化学研究所 鈴木明身
2. リン脂質由来の生理活性脂質
帝京大学薬学部 和久敬蔵・杉浦隆之・岸本成史
3. ロイコトリエンの生合成と受容体
東京大学大学院医学系研究科 清水孝雄
4. 高等動物ホスホリパーゼの新しい機能
昭和大学薬学部 工藤一郎
5. 下等動物の脂質
滋賀大学教育学部 杉田陸海
6. 真正細菌・酵母の脂質の生合成
東京大学大学院農学生命科学研究科 太田明徳
7. 古細菌の脂質の構造と生合成
産業医科大学医学部 西原正照

平成12年度 日本脂質生化学研究会総会のお知らせ

上記の総会を平成12年6月16日(金)18:00～18:30に北九州国際会議場のイベントホールにおいて開催いたします。ご出席賜りたく存じます。

会長 脊山洋右

- 議題 1. 平成11年度事業報告
2. 平成11年度決算報告ならびに監査報告
3. 平成12年度事業計画ならびに予算案
4. その他

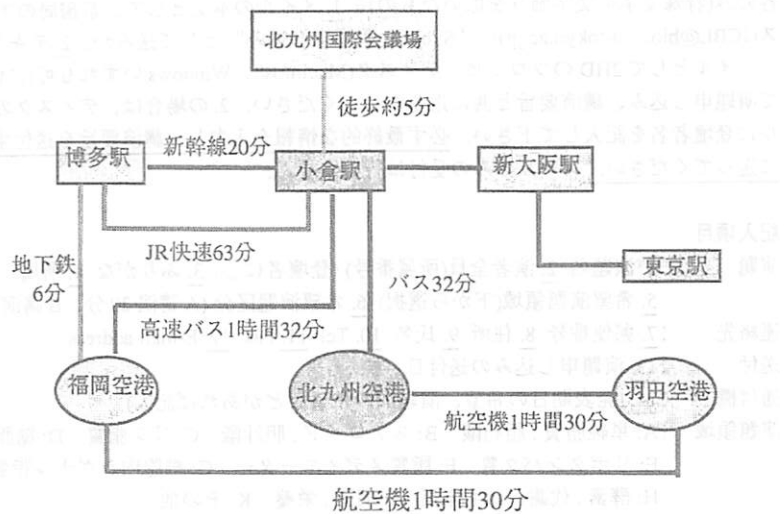
平成12年度 日本脂質生化学研究会幹事会のお知らせ

上記の幹事会を平成12年6月16日(金)12:00～13:00に北九州国際会議場の第11会議室において開催いたします。幹事の皆様のご出席をお願い致します。

会長 脊山洋右

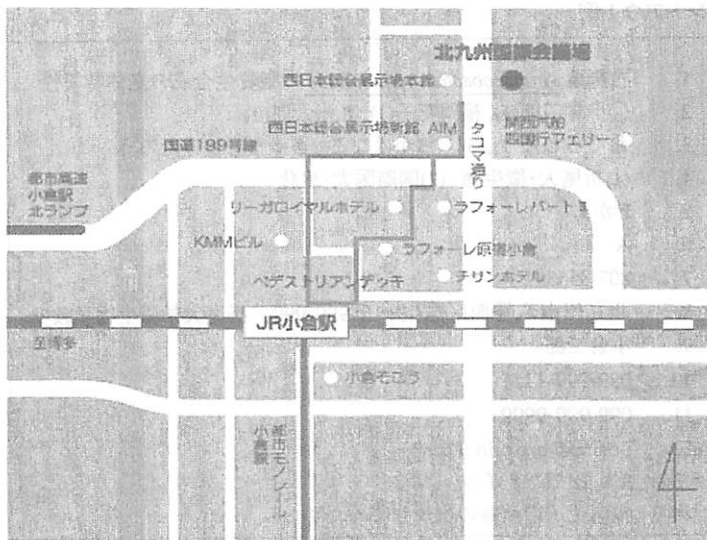
- 議題 1. 平成12年度日本脂質生化学研究会総会への提案事項の検討
2. その他

交通案内
北九州（小倉）へのアクセス



会場へのアクセス

小倉駅2階北口（新幹線側）から動く歩道（ペDESTリアンデッキ）利用、アジアインポートマート（A I M）経由会場へ



第42回 研究集会 発表演題の募集

○演題の申し込みについて

1. 必要事項を記入した演題申し込みとコピー 2 部
2. 講演要旨とコピー 2 部

1. 2. を揃えて、平成 12 年 3 月 31 日(金)までに日本脂質生化学研究会事務局宛にお送りください。さらに、演題申し込みの内容をメールで JCBL@bio.m.u-tokyo.ac.jp 宛にお送りください。メールを使用にならない方はテキストファイルでフロッピーディスクに保存したものを 1. 2. に添えてお送りください。(7 頁参照)

講演要旨は、A4の白紙(2枚以上4枚以内)に別掲の要領(6頁)で作成してください。

演題採択は審査により決定いたしますのでご了承ください。

○講演要旨送付先

NY 113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学医学部代謝生理化学内

日本脂質生化学研究会事務局

Tel & Fax : 03-5684-4958

E-mail : JCBL@bio.m.u-tokyo.ac.jp

○研究集会についての問い合わせ先

☎ 807-8555

北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

産業医科大学医学部生体物質化学 古賀洋介

Tel : 093-691-7215

Fax : 093-693-9921

E-mail : kogay@med.uoeh-u.ac.jp

第42回 日本脂質生化学研究会・研究集会 講演要旨作成要領

- 講演要旨はA4の白紙に、縦260mm×横170mmの枠中におさめて印刷してください。原則として、字の大きさは12ポイント、1頁38行以内にしてください。要旨集印刷の際、4/5程度に縮尺されて印刷されますので、ご注意ください。図表は写真やコピーを糊付けしても結構です。
- 1枚目の用紙には、演題名、氏名、所属、要旨を下記の例を参考にして、次の要領で書いてください。
演題名：全角8文字目から書き始め、2行以内におさめる。
氏名・所属：演題名より1行空ける。全角8文字目から氏名を書き、所属は適切な略記を用いて()内に入れる。
要旨：氏名・所属より1行空ける。1文字空けて書き始める。全体を枠で囲む。
本文：要旨より2行空ける。
- 講演要旨の送付にあたって
講演要旨の裏側に鉛筆で印刷順を記し、コピー2部と共に厚紙等で保護して、5頁の演題募集の要領に従って送ってください。

(例)

古細菌 *Archaeobacter thermophilus* の脂質生合成の立体特異性

小倉二郎、福岡花子 (折尾大・微生物) 九州太郎 (国際医大・生化)

好熱性古細菌 *Archaeobacter thermophilus* の新規脂質の生合成酵素を解明した。

先に我々は、好熱性古細菌の新規脂質Xを報告したが、

第42回 日本脂質生化学研究会・研究集会 演題申し込み 記入要項

下記の各項目をワープロ等で入力しA4用紙にプリントアウトしたものとコピー2部を演題申し込みとして、講演要旨と共に提出してください。同時に、そのテキスト内容のみ(特殊文字や文字飾りを除いたもの)を1.メールの本文として、事務局のアドレス(JCBL@bio.m.u-tokyo.ac.jp)に“Subject: 演題申し込み”として送るか、2.テキストファイルとして2HDのフロッピーディスク(Macintosh、Windows いずれも可)に保存して演題申し込み、講演要旨と共に送るかしてください。2.の場合は、ディスクのラベルに登壇者名を記入して下さい。必ず最終的な情報を入力し、講演要旨を送付する日に送ってください。メールのみの受付は行いません。

記入項目

- 演題 : 1. 演題名 2. 演者全員(所属番号)(登壇者に○) 3. ふりがな 4. 所属
5. 希望演題領域(下から選択) 6. 希望演題区分 (A 講演 20分、B 講演 15分)
連絡先 : 7. 郵便番号 8. 住所 9. 氏名 10. Tel 11. Fax 12. E-mail address
送付 : 13. 演題申し込みの送付日、方法
通信欄 : 14. (発表期日の希望、演題順の希望などがあれば記入)
演題領域 : A: 単純脂質、脂肪酸 B: ステロイド、胆汁酸 C: リン脂質 D: 糖脂質
E: リポタンパク質 F: 脂質メディエーター G: 細胞内シグナル脂質
H: 酵素、代謝 I: 生体膜 J: 病態、栄養 K: その他

記入上の注意

番号に続いて、[tab] (長さは問わない)を入力し、続いて12ポイントで記入。項目名は空かないこと。数字、記号、スペースは半角。各項目は[改行]で区切る。12、14. は無ければ空欄。特殊文字や文字飾りは下線で指示し、メールやディスクでは送らないこと。

プリントアウト例

- 古細菌 *Archaeobacter thermophilus* の脂質生合成の立体特異性
- 小倉二郎(1), 福岡花子(1), 九州太郎(2)
- おぐらじろう, ふくおかはなこ, きゅうしゅうたろう
- (1)折尾大・微生物, (2)国際医大・生化
- F か G
- A
- 807-8555
- 北九州市八幡西区医生ヶ丘 999-999 折尾大学微生物学教室
- 小倉二郎
- 099-999-1111
- 099-999-9999
- j-ogura@bac.orio-u.ac.jp
- 3月28日, メール
- 福岡花子の演題の次にしてください

第 42 回日本脂質生化学研究会宿泊ご案内

この度、第 42 回日本脂質生化学研究会が北九州にて開催されますことを、こころよりお慶び申し上げます。この度皆様方のご宿泊の手配を担当させていただきます私共は JTB 北九州支店でございます。

下記の通りご宿泊のご案内を申し上げます。皆様のご利用、お申込みをお待ち申し上げております。

1) 宿泊のご案内

◎ 宿泊期間／平成 12 年 6 月 15 日（木）～6 月 17 日（土） 3 日間
（上記以外の宿泊についてもご希望の方はお申込み下さい。）

（2000 年度料金）

クラス	部屋タイプ	宿泊料金	ホテル名
A	ツインの シングルユース	12,000 円	リーガロイヤルホテル小倉 小倉駅より徒歩 1 分
B	ツイン	11,000 円	
C	シングル	10,000 円	ステーションホテル小倉 小倉駅前徒歩 0 分
D	シングル	9,000 円	チサンホテル小倉 小倉駅前徒歩 2 分
E	シングル	8,500 円	プラザホテル北九州 小倉駅前徒歩 3 分
F	シングル	8,000 円	小倉東急イン 小倉駅前徒歩 13 分
G	シングル	7,500 円	ガーデンホテル紫川 小倉駅前徒歩 13 分

★ 別添申込書にクラス別記号をご記入下さい。

★ 上記宿泊料金は 1 泊朝食付き税金・サービス料込みです。

2) 参加申し込み方法

- ① 別途参加申込書に必要事項をご記入の上、「第 42 回日本脂質生化学研究会・研究集会」係宛に、郵送又は FAX にて期日までにお送り下さい。
- ② 参加登録後、『宿泊予約券』と、振込み先通知を 6 月 9 日（金）までにご送付いたしますので、宿泊予約券は当日必ずご持参下さい。
- ③ 振込に際しましては、ご入金確認を迅速に行えるよう、振込人名には必ず

講演要旨と演題申し込みを送る際には、この頁をコピーして下記のラベルを切り抜き、
封筒にお貼り下さい。締切は平成 12 年 3 月 31 日（金）です。

〒 113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学医学部代謝生理化学内

日本脂質生化学研究会事務局

参加申込者と同一の“所属名”を記載していただくようご協力をお願い致します。(銀行振込手数料は各自でご負担をお願い致します。)

④ お申込みに際し、通信費としてお一人様 500 円を申し受けます。

3) 申し込み先

JTB 北九州支店 「第 42 回日本脂質生化学研究会・研究集会」 係

〒802-0005 北九州市小倉北区堺町 1-1-1

TEL : 093-521-2887

FAX : 093-531-8486

担当者：長村・池田

4) 申し込締切日

平成 12 年 5 月 29 日 (月)

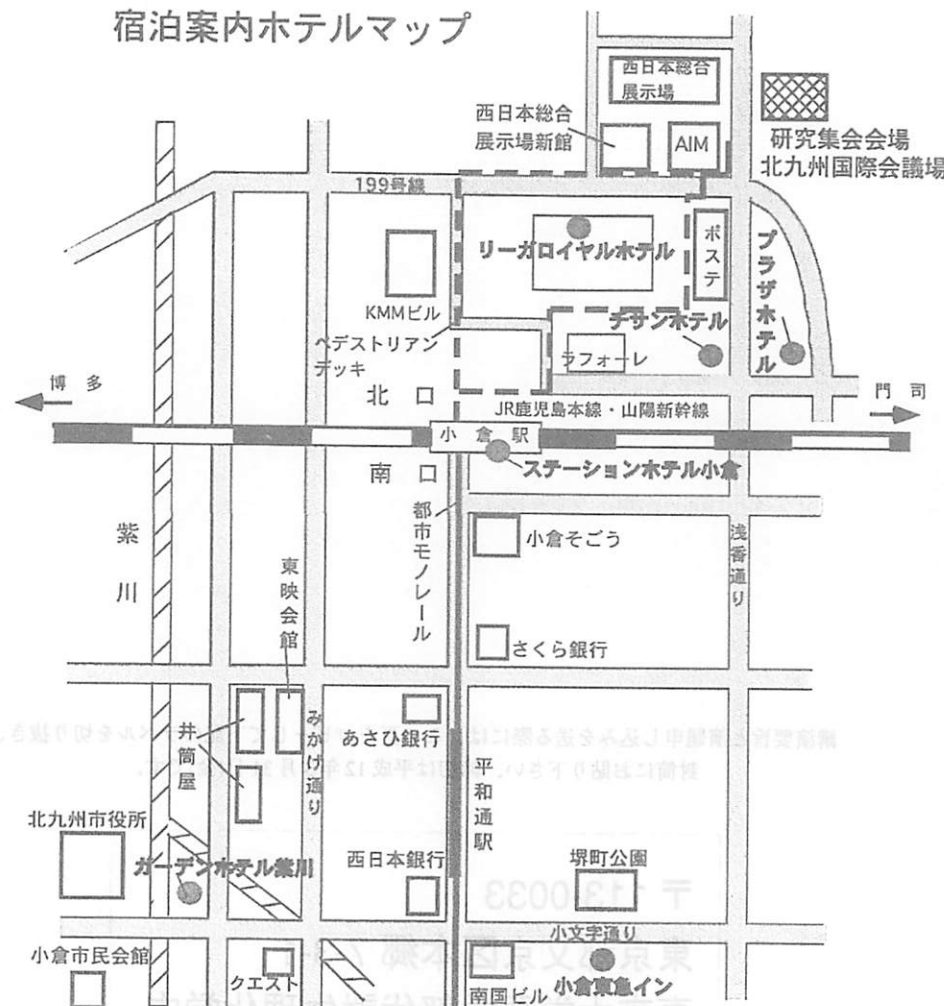
5) 変更・取り消しについて

◇ 変更・取り消しは、お早めにご連絡下さい。

◇ お申込み後の取り消しにつきましては、下記のとおり取り消し料を申し受けます。

	20日前	9日前	前日	当日
1泊につき	10%	20%	80%	100%

宿泊案内ホテルマップ



「第42回日本脂質生化学研究会、研究集会」申込書

参加登録：宿泊・昼食

フリガナ	フリガナ	フリガナ
TEL ()	フリガナ	フリガナ
FAX ()	申込枚数	
住所 (〒 -)		

※左記住所に全員の方の書類（クーポン券類）を送付いたします。

フリガナ	年齢性別	参加者氏名	職名・職種	希望				宿泊			備考
				第一希望	第二希望	6.15	6.16	6.17	6.18	6.19	
例	男・女 36	ニホン・タロウ 日本太郎		○	○	A	B	○			
①	男・女										
②	男・女										
③	男・女										
④	男・女										
⑤	男・女										

ご返金時の銀行口座名簿をご記入ください。

銀行名：	銀行	支店
口座番号：	普通・当	
口座名義：		

◆お申込み締切日：5月29日（月）

◆お申込み・お問合せ先

JTB北九州支店

「第42回日本脂質生化学研究会、研究集会」係

TEL：093-521-5956 FAX：093-531-8486

※必要に応じてコピーをしてください。

今井 陽先生を偲んで

石橋輝雄

北海道大学医学部
分子生化学講座

北海道大学医学部名誉教授、今井 陽先生は平成11年9月7日慢性腎不全のため御逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は大正10年4月札幌市に生まれ、昭和19年9月に北大医学部を卒業。直ちに海軍軍医として太平洋戦争に参戦後、20年10月北大医学部副手(安田守雄教授)となり、21年5月に同助手、21年12月には「微生物体脂質に関する生化学的研究」で医学博士の学位を授与されました。25年3月に同助教授となり、31年8月から3年間米国へ出張、帰国後は研究を動的生化学へと進められました。39年2月に生化学第二講座を開設、53年4月から北大アイソトープ総合センターの初代所長を併任され、退官まで7年間この職を務められ、アイソトープに関する教育・研究・安全管理のために中枢的な役割を果たされました。

先生は学生時代から生化学の教室に出入りされ、卒業後もそのまま生化学を専攻されました。先生は機械が大変好きで、教室はもとより、医学部中央研究部やアイソトープ総合センターにも積極的に大型機器導入に尽力され、私達は最新の機器を身近に利用できる良き環境に恵まれました。

研究内容は多岐に渡っておりますが、その根幹は故安田守雄名誉教授以来の脂質の研究であり、健康から疾病への転換機序の解明にありました。特に我が国の死亡例の過半を占める内因性疾患の多くが、脂質代謝異常と密接に関連することに注目し、その調節機序を生化学的に追求したことを特色としております。特に後半の研究は、脂質の構造と機能及

び体内・細胞内動態の研究・電子伝達複合酵素成分の単離・再構成による反応機構解析・膜酵素に及ぼす細胞質因子と膜受容体の解析・炎症発現物質 (PAF、PG群など) とそれらの生理作用の解析・リポ蛋白質の分子生化学的研究にまとめられるでありましょう。

また先生は35年に「人脳よりジホスホイノシチドの分離」という論文をJ.Bに発表されております。現在このリン脂質は細胞内情報伝達に重要な物質であることが判明しており、今更ながら先生の先見の明に敬服致しております。そして平成4年「脂質代謝異常の研究」で北海道医師会功労賞を受賞されました。

生化学のみならず栄養学にも力を入れられ「病態栄養学総論」「栄養生理学入門」を著し、栄養学を医学面から捉える斬新な考え方の普及に務められました。また故坂上利夫教授との共著「脂質の生化学」は、高度で含蓄があり、全国の学生・研究者の必携の書となりました。

日本脂質生化学研究会では発足以来の幹事として代表世話人を2回務め、札幌で脂質生化学研究会・研究集会を主催されました。

以上のように先生は、生化学の研究および教育を通して、多くの業績を挙げられ、平成8年勲三等旭日中綬賞を受賞されました。

ここに改めて先生のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。



第42回 日本脂質生化学研究会・研究集会を 企画するにあたって

実行委員長 古賀 洋介

約1年半前、大阪の研究集会での幹事会の席上、当研究会の第42回研究集会の実行委員長を仰せつかりました。20数年前、脂質の専門家の集まりであり、レベルの高い討論の行われるこの研究集会におそるおそる演題を申し込んでいたことを考えると、この大役をお引き受けすることは大変光栄であると同時に、責任の重さに身の引きしまる思いであります。

九州には当研究会会員が少なく、研究集会の九州での開催も30数年ぶりとか伺っております。他の学会等で福岡にお越しの方は多いと思いますが、北九州を訪ねる機会はそんなに多くないのではないのでしょうか。はじめは産業医科大学内での開催も考えたのですが、市の中心から外れており、交通、宿泊の便があまりよくないことを考えて、北九州市自慢の国際会議場を利用することにしました。交通至便で、各地からそれほど距離を感じないでご参加いただけるのではないかと思います。また、市の中心にも近く、九州の玄関口としての北九州市の姿の一端でも見ていただけたら、と思っております。

本研究集会は20世紀最後の集会にあたり、「20世紀の脂質生化学研究の到達点」と題するシンポジウムを企画いたしました。多岐にわたる脂質生化学研究会の研究活動を総括し、会員共通の認識を得る一助になれば、と念願しております。一般発表は従来の方式に則って行う予定です。今回は幹事会の示唆により学生会員の参加費、懇親会費を引き下げましたので、若い方も参加しやすくなっているかと思います。何分小さな研究グループによる研究集会のお世話ですので、至らぬ点があるかと思いますが、どうぞ全国から多数の方が北九州の地にお見えになることをお待ちしております。

第41回 日本脂質生化学研究会・研究集会を主催して

北里大学医学部

玉井洋一

第41回日本脂質生化学研究会・研究集会は、1999年6月3日(木)、4日(金)の2日間にわたり、鎌倉市の鎌倉プリンスホテル・バンケットホール七里ヶ浜で開催されました。

参加者は、参加費納入者271名のほか、シンポジストや名誉会員などの招待者を含め300名近くで、特別講演1、シンポジウム5題、および79の一般演題が3つの会場に分かれて発表され、活発な討論が行われました。

研究集会を成功させるために実行委員会が最初に取り組んだのは、特別講演とシンポジウムをどのような内容のものにするかということでした。いわばこの目玉となるプログラムに、参加人数や演題数も含めた研究集会の成否がかかっていると考えました。箱守仙一郎先生(University of Washington/North Pacific Research Institute)は、この研究集会で一度も講演されていないことがわかりました。シンポジウムは、来るべき21世紀を見据え、少々冒険ではありましたが、純脂質生化学にこだわらず、他の領域から脂質にまたがる医・生物科学の研究を取り上げることにしました。講演をお願いしました方々が、こちらの趣旨をご理解され、即座に快諾されたのは、強力な助っ人を得た思いでした。

シンポジウムは「脂質の学際的研究-21世紀への新たな展開をめざして」と題し、青山俊文(信州大)、蒲原聖可(順天堂大)、門脇 孝(東京大)、川戸 佳(東京大)、月原富武(大阪大)の先生方から、それぞれの専門の領域から脂質科学の領域へ広がる研究の最新の知見をわかりやすくご講演いただきました。約250名の聴衆があり、たいへんな盛況でありました。山川民夫先生や箱守先生から、シンポジウム企画に対しお褒めの感想をいただき、企画が成功したことを知り安心しました。

「細胞認識とシグナル伝達に参与するスフィンゴ糖脂質」と題した箱守先生の特別講演は予定の時間を大幅に超える熱演でありました。スフィンゴ糖脂質の生理機能に関して最新のデータも含め、限られた時間内に収まりきれないほどたくさんのスライドをご用意いただいたものと思います。本研究集会に対する先生の熱意に敬意を表します。一般口演も80題近い発

表があり、それぞれ活発な討論が行われました。特別講演、シンポジウム、一般口演を含め、ご講演ご発表いただきました皆様やタイトなスケジュールにもかかわらず円滑な進行にご協力いただきました座長の皆様、そして討論に参加されました皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

懇親会は講演会場と同じバンケットホールで行われました。箱守先生ご夫妻をまじえ140名の参加者があり、これも盛況でありました。

今回の研究集会では、はじめての試みとしてホームページを開設しました。1月に開催予告の情報を載せ、以後、逐次情報を更新し、4月中旬には全プログラムを載せました。このホームページはさらに生物科学関係の別のホームページにリンクされることにもなりました。また、シンポジウムのテーマに関連して、基礎、臨床関係あわせて12の学会誌、雑誌、新聞に開催広告を掲載しました。サーキュラーを通した情報は会員にしかとどきませんが、このような広報活動の結果、思わぬ方面からの問い合わせがあったり、日頃から脂質生化学研究に携わっていない非会員の方の参加もあったことなど、この研究集会は、従来にない新しい血を導入して、本研究会の発展に貢献したのではないかと自負しています。また、今回は、脊山洋右会長をはじめとする新事務局とタッグを組んだ最初の研究集会でしたが、大きな齟齬もなく無事終えることができました。この研究集会は、マンモス学会の大会と異なり、研究会事務局のサポートさえあれば、われわれのような小規模の研究室でも遂行可能です。この良き伝統は、これからも大切にしたいとの思いをあらたにしました。

研究集会当日は天候にも恵まれ、湘南海岸の景色も楽しんでいただけたものと思います。後日、何人かの先生方から、お礼の手紙をいただきました。主催者側としてこれにまさる喜びはありません。

最後になりましたが、研究集会を開催するにあたり、多くの企業、団体からご寄付をいただきました。お名前は省略させていただきますが、この場を借りて厚く御礼申し上げます。麻布大学医動物学教室の川上泰先生と学生諸君には会場の設営とプログラムの進行にご協力いただきました。鎌倉プリンスホテルの小澤圭介氏には、会場設営に対するこちらの無理な注文にも最大限応え、費用の面でもご配慮いただきました。その他、ご協力いただきました多くの方々に心から感謝いたします。最後に、成功裡に研究集会を終えることができましたことを研究室員とともに喜びたいと思います。

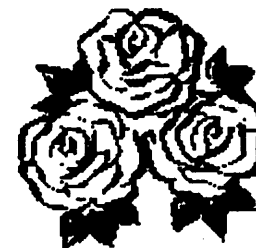
脂質生化学研究会に入会した頃

群馬大学医学部生化学教室

山下 哲

初めて脂質生化学研究会に参加したのは1970年、奇しくも私の前任者である山添三郎教授が群馬県伊香保温泉で主催された第12回集会でした。2会場制になってはいましたが、みな同じ宿に泊まり、第一会場も懇親会もそこというこじんまりしたものでした。第二会場は近所の公民館で、前にトリ小屋があり、休み時間にはそれを眺めていたのを思い出します。その建物は今はもうありません。私がリン脂質に興味を持ったのは1967年Efraim Racker先生の下で勉強していた頃、呼吸鎖の再構成にリン脂質が絶対必要だということを身をもって体験したときです。1968年に帰国し、京都大学医学部の沼先生のもとでホスファチジン酸合成の仕事を始めることになって、以来今日まで32年間リン脂質の仕事をすることになりました。はじめた当時はまだ代謝学の影響でしょうか分解より合成のほうなんとなくいいような気がして、同じやるなら合成のイニシャルステップということでホスファチジン酸合成をやることに決めたのですが、今から考えると分解をやっておいたほうがよかったかもしれません。当時は和久、奥山、少し遅れて鬼頭先生などが活発にアシルトランスフェラーゼの研究をしておられて脂質生化学研究会を賑わしていました。あの頃の私には脂質生化学研究会のほうが生化学会より重要なイベントでありました。ひとつには研究会が生化学会の少し前にあるため新しいデータは脂質生化学研究会で発表する事が多かったためですが、もうひとつの理由は仲間うちの会という感じが強く脂質の分離法、分析法などメソッドを教えてもらうのに便利だったからです。私自身、大学院のとき一年間という短期間ではありましたが東大薬学の薬化学教室で有機の勉強をさせてもらったことがあるので脂質には入りやすいほうだったと思いますが、それでもホスファチジン酸とかリゾホスファチジン酸とか個々の脂質の扱いについてはいろいろと教えてもらうことがあって大変助けになったものです。その頃はさすがのアマーシャムでも脂質関係の標識化合物は全然揃えてはいなかったの

で、グリセロリン酸は[C-14]グリセロールをATP、グリセロキナーゼとインキュベートして作りましたし、[C-14]コリンリン酸、[C-14]CDPコリン、[C-14]リゾホスファチジン酸なんかも全部自作でした。昨今はキット時代の影響でしょうか純化した脂質も標識化合物もいろいろ売っていて金さえあれば手っ取り早く仕事は出来るようになりました。そのこと自体は喜ばしいことですが、その反面、先輩たちが作り上げ磨き上げた脂質生化学の技術がだんだん失われて行くような気がして心配です。大学院の基礎トレに脂質のことをもっと取り入れてもらいたいものです。脂質研究は今、新しい黄金時代を迎えつつあります。研究会がこのところ毎年毎年おもしろくなってきました。それに時代を反映してか昔と違って脂質研究も脂質そのものから酵素、タンパク、遺伝子、細胞、個体レベルまで幅広くなってきました。脂質生化学研究会がそれらを大きく飲み込んでますます発展していくことを願っています。



愚直な研究を振り返る

新潟大学医学部第二生化学

小野輝夫

脂質生化学研究会との出会いは昭和36年助手として北大医学部生化学の安田守雄先生の教室に入ってからである。先生は生体試料から総脂質を抽出するBloor法で有名な先生の居られたRochester大学で学ばれPh. D.を取得、脳腫瘍の正常部位と腫瘍部位での脂質組成の差についてJ. Biol. Chem.に報告されておられる。エタノール/エーテル(2:1)の溶媒を用い還流冷却器下に加温して脂質抽出するBloor法は、その後クロロホルム/メタノール(2:1)の室温下に行うFolch法にとって変わられたが、新潟に赴任した折り、脳研究所でFolchさんの所に留学した先生にお会いした時は大変懐かしい思いがした。安田先生が当初私に出したテーマはコレステロールが医学的に重要なのに良い定量法がないので検討しないかというのと、尿のステロールは興味深いので分析してみないかというのであった。先生に表立っては逆らわなかったが、当時コレステロール生合成の中間代謝経路が完成されつつあった時でもあり、また助教授だった今井陽先生がガスフローカウンターを留学先から持ち帰ったこともあり、トレーサー実験に興味を抱きそれを使った研究を考えた。そのころ酸素添加酵素に関する研究は佐藤了、大村恒雄、早石修先生らの手でエネルギーに展開されており研究領域が拡大されつつあった。コレステロール中間体の放射性メバロン酸を基質に中間体を解析していた中で、一酸化炭素の気相でスクアレンではなくラノステロールが蓄積していることに気づいたことから、コレステロール生合成の最初の酸素添加反応に興味を抱いた。コレステロール生合成の酸素添加酵素についてはそれまでスクアレンからラノステロールに至る酵素反応が中間体を経ない協奏反応と考えられ酵素もoxidocyclase Iとして扱われていたが、Corey、山本尚三、Blochらにより独立したエポキシダーゼとシクラーゼ酵素により触媒される証拠が示されるようになった。Blochさんが来日し北海道に来た時その話をしたところ私のところでやってみないかと誘われたが、学園紛争に巻き込まれ実現したのは2年後であった。Blochのところではミクロソームからの酵素の可

溶化と再構成を行ったが、末端酸化酵素がCyt. P-450分子種では無いとの状況証拠は得られたものの決定的証拠を得ることは出来なかった。幸いSprinsonらが酵母のポルフィリン mutantの研究で mutant 株ではラノステロールが蓄積されることを明らかに示しエポキシダーゼがCyt. P-450分子種とは異なるとの我々の考えを間接的に支持したこともあり発表まで漕ぎ着けることが出来た。その後新潟に来て良い研究者にも恵まれエポキシダーゼをクローニングでき、フラビン酵素であることを確認できたが、更にこの酵素の遺伝子構造と染色体局在、転写調節機構へと展開させてきた。本酵素はコレステロール生合成の律速酵素の1つであり、結晶化による構造解明及び核内のオーファンレセプターの1つLXR α の生理的リガンド生成との関連に研究が発展することを期待している。

昭和53年12月新潟大学医学部第二生化学に赴任することになったが、もう1つの仕事として手掛けたものにコレステロール結合タンパク質の検索がある。細胞質中からコレステロールに特異的に結合するタンパク質は結局同定できず、代わりに脂肪酸結合タンパク質を同定しその一次構造を世界で最初に報告し、決定した構造の相同性から神経鞘で知られ多発神経炎の抗原性タンパク質と考えられていたミエリン P2 タンパク質、cellular retinol binding protein (CRBP)、cellular retinoic acid binding protein (CRABP)などがprotein superfamilyを形成していることを明らかにした。驚いたことに脂肪酸結合タンパク質は遺伝子を異にする幾つかの分子種が存在し最初に単離された臓器名により心筋型、腸型、肝型、脳型、皮膚型、脂肪細胞型などが同定されて来たが、これら分子種の機能の違いは依然解明されておらず今後の課題である。一方回腸から単離し一次構造上脂肪酸結合タンパク質ファミリーに属するが脂肪酸結合能のないタンパク質をI-15Pとして報告したが、このものが胆汁酸結合タンパク質(BABP)であることが判明し、最近そのpromoter領域に核内のオーファンレセプターの1つで胆汁酸をリガンドとするFXRにより転写調節される部位のあることを明らかに出来た。

主な2つの愚直な研究ではあったが、コレステロールのホメオスタシスへの関与という面で、一見無関係に思えたエポキシダーゼと脂肪酸結合タンパク質の研究が退官を機に結びついたのは不思議な縁でもあり感慨無量である。

第40回 国際脂質生化学会議 (ICBL) に参加して

近畿大学理工学部

岩森正男

ICBL (International Conference on the Biochemistry of Lipids) の略称で呼ばれる国際脂質生化学会議の第40回大会がフランス、ブルゴーニュ地方の中心都市ディジョンのブルゴーニュ大学を会場にして、1999年9月14日から17日まで開催された。今回の主要テーマは脂肪酸の生理活性と代謝およびラジカルであり、私自身の研究課題とはかけ離れているが、開催地がフランスという理由で参加させていただいた。

13年前にパリのサルペトリエル病院神経科学研究所パウマン先生の研究室でミュータントマウスの研究を行う機会があり、その後も数回パリの研究所を訪れており、今回も学会参加を機にパリにという魂胆であった。ディジョンはパリから90分程度の位置にあり、フランス王家に対抗していたブルゴーニュ公国の中心都市として栄えた街だけあって、中世建築遺産が数多く残り、古都の雰囲気溢れた小綺麗な市街地を形成していた。シャンベルタンやロマネコンティで有名なブルゴーニュワインの産地であることと、伝統的フランス料理の基礎となる美食の古里とも呼ばれるだけあって、日本からの観光ツアー客も散見された。大学キャンパスは市内中心部よりバスで20分程度の郊外に位置し、広大なキャンパスを持つ総合大学であり、折柄新学期を迎え地方からの初々しい学生相手にクラブの勧誘や10月からの授業に備えたガイダンスが行われていた。主権者のボワソン教授も学会が終われば翌週から講義が控えていて、新学期はいつも緊張すると話しておられた。ブルゴーニュ大学には日本からの留学生もあり、学生食堂で会った5名の日本人学生は講義の厳しさを話しながらもフランスでの学生生活を楽しんでいる様子であった。学会は第3回 Van Deenen メモリアルレクチャーとして、テキサス大の Clarke 教授によるポリエン脂肪酸の摂取による脂肪蓄積の減少機構についての講演が行われた。魚油などに含有されているポリエン脂肪酸は、脂質の酸化とエネルギー供給源の遺伝子を活性化し、逆に脂質合成系の遺伝子を抑制するとの知見を、関連する鍵酵素、アシル-CoA オキシダー

ゼ、不飽和化酵素を中心に、転写因子 PPAR による調節を通じて見事に示された。

翌日のシンポジウム、gene expression and fatty acid metabolism も脂肪酸をシグナルとする脂肪細胞の分化、および関連する酵素遺伝子の PPAR 各種イソフォームを経由する転写調節が中心話題となっていた。脂肪蓄積と脂質のエネルギー利用を遺伝子レベルで解析する上で、PPAR の役割の解明が急速に進んでいることが分かった。PPAR のリガンドとして、長鎖脂肪酸、DHA などのポリエン脂肪酸、プロスタグランジン J2、thiazolidinedione 抗糖尿病薬、WY14643、テトラデシル-3-チオ酢酸などが用いられ、ウィスコンシン大学の Ntambi、ニースの Grimaldi らは脂肪細胞の分化、アシル-CoA 不飽和化酵素やインスリン感受性の変化と PPAR イソフォームとの関係、ニューヨーク州立大の Abumrad はトランスジェニック動物を用いて PPAR と連動した酸化 LDL スカベンジャー受容体 CD36 による脂肪酸輸送と心疾患、「型糖尿病との関係、ミラノ大学の Fabiani らは胆汁酸合成経路と PPAR、ブルゴーニュ大学の Passilly らは PPAR のリン酸化による活性調節を示し、注目されていた。第2のシンポジウム課題 conjugated polyenoic fatty acids においては、リノール酸、その不飽和結合の位置異性体などの脂肪酸を含有するトリグリセリドなどの摂取による乳癌や前立腺癌のリスク軽減、体脂肪の減少、リポ蛋白質リパーゼ、不飽和化酵素、 β 酸化速度、プロスタグランジン E2 合成に対する影響などをヒトや実験動物について調べた報告があった。栄養学的見地からの解析が中心であり、ダブリン市立大学のグループは季節によって牧草の成分が変化することにより牛乳中のリノール酸複合体の含有量に2倍近くの差が出ると報告していた。第3のシンポジウム free radicals and membrane lipids では、酸化 LDL の産生に関わるラジカルと抗酸化剤の作用、およびスカベンジャー受容体についての発表が中心となっていた。酸化 LDL のマーカーとして、オキシステロールやリゾレシチンを用い、抗酸化作用を持つアルブミン mRNA の転写と翻訳に対する影響をディジョン大学のグループが、生細胞のラジカル量を定量化できる新しい蛍光測定法と抗酸化剤の検索をユトレヒト大のグループがそれぞれ報告し、また PGF2a の代謝産物 15K-DH PGF2a と酸化ストレス、脳貧血などで産

生されるN-アシルPEとパーオキシドの関与、トコフェロールの酸化型トコフェロールキノンと血液凝固などについて多くの討論が行われた。ポスター発表はシンポジウムの合間に行われ、予定していたボード数よりも発表数が多く、規格の異なるボードがあり、掲示に苦労される方もおられた。発表内容に興味を持つ人とじっくり討論でき、また共同研究の打ち合わせができるのがポスター発表の利点であるが、議論した人のほとんどから抗体や糖脂質の分与の申し入れがあり、閉口したのも事実である。

学会運営にはフランスらしさが随所に見られた。開会セレモニーはディジョン市庁舎のバロック様式の宮殿広間でブルゴーニュワインを飲みながら、またコンサートも同じ場所で行われた。3日目の小旅行は、病院の原型とも言えるボヌ施療院を訪れ、当時の治療器具や設備を見学した。ブルゴーニュワインの産地で、200万本のワインを前に年代と地域の異なる10種類のワインの試飲の後、シャトーの穴蔵レストランでフランス料理を味わった。広大なぶどう畑の広がる丘で夕日が沈む風景は幻想的であるが、1皿の料理を味わうのに1時間、宿にたどり着いたのは午前1時もフランスならではであった。日本からは、ICBL理事の脊山先生、いつも参加しておられる帝塚山学院大の入谷先生と福田先生、農水省の関谷先生を始め8名が参加していた。約260名の参加者のほとんどがヨーロッパ各国からであり、若い学生や研究者の参加が多く、脂質という限定された分野の情報交換と親睦の会としてよく機能していると思われた。

学会の後、パリ大学に立ち寄り、新学期からの講義のプレビューの1つに参加し、旧交を暖めることができ、私自身にとっては大変ラックスできた10日間であった。今回の第41回会議は2000年9月13日から16日までドイツHalle (Saale)、Martin-Luther UniversityのRenate Ulbrich-Hofmann教授が主催して開催される。



41st International Conference on the Biochemistry of Lipids

Halle (Saale), Germany

September 13-16, 2000

Conference Venue

Martin-Luther University Halle-Wittenberg,

Melanchthonianum

Universitätsplatz 8/9

06108 Halle (Saale), German

Posters

All participants are invited to present posters and to take part actively in the poster sessions. From the submitted abstracts, nine contributions closely connected to the topics of sessions 1 to 3 will be selected, and the authors will be invited to present their results as short oral communications.

Poster Awards

The Poster Award Committee will select 3 outstanding posters (judged for scientific content and presentation) for Poster Awards. The prizes will be presented during the Conference Dinner on Friday, September 15, 2000.

Poster Presentation

Poster presentation will take place next to the lecture hall. Posters are presented during all days of the Conference. Three poster discussion times are planned. Per poster one display board (height 140 cm, width 110 cm), suited for use of pins and adhesive strips, will be available.

Submission of Abstracts

The conference abstracts will be published in an issue of "Chemistry and Physics of Lipids". The length of the abstract is limited to 250 words including title, authors, and references. Abstracts should be submitted on a 3.5-inch computer disc (preferably written in Word for Windows) and accompanied by three printed copies. Abstracts sent by e-mail or fax will NOT be accepted. Each registered participant is entitled to submit only two abstracts as presenting author.

Authors should submit the abstract not later than April 30, 2000.

The abstracts should have the following format:

Title (in bold)

Author's name(s), surname followed by initials (in roman)

Author's affiliation(s) (in italic)

The body of the text (in roman 12, set single column)

A limited number of abstracts closely related to the three main topics of the Conference will be selected for oral presentation. The authors of these abstracts will be informed by July 15, 2000.

	Registration before April 30	Registration after May 1
Participant	DM 600	DM 750
Student	DM 200	DM 250
Accompanying Person	DM 300	DM 400

Hotel Accomodation

Hotel accomodation will be taken care by the ICBL Conference Office:

Ms. Karin Schubert

Kanzleigasse 1

D-06108 Halle(Saale)

Germany

E-mail: kongressbuero@t-online.de.

Correspondence

Professor Renate Ulbrich-Hofmann (Chairwoman), Department of Biochemistry/Biotechnology, Martin-Luther University of Halle-Wittenberg, Melanchthonianum
Universitätsplatz 8/9

06108 Halle (Saale), Germany

<http://www.ICBL2000.uni-halle.de/index.html>

E-mail: ulbrich-hofmann@biochemtech.uni-halle.de

SCIENTIFIC PROGRAMME

1. Structural biology of enzymes acting on lipids
2. Sources, targets, and mechanisms in lipid signalling
3. Membrane integrity and trafficking
4. Hot topics

LL.M. van Deenen Lecture:

R. Huber, Martinsried (Germany) : The structure and function of the annexins

Session 1: STRUCTURAL BIOLOGY OF ENZYMES ACTING ON LIPIDS

- E. A. Dennis, La Jolla (USA) : Phospholipases A2 and lysophospholipases - structure and function
- R. L. Williams, Cambridge (UK) : Structural studies of phosphoinositide signalling
- J. H. Exton, Nashville (USA) : Phospholipase D: Enzymology, mechanism of regulation, and function
- R. Verger, Marseille (France) : Structure-function relationships of lipases
- B. G. Fox, Madison (USA) : Diron enzymes in lipid metabolism
- J. C. Sacchettini, College Station (USA) : Structure and function of farnesyl diphosphate synthase
- G. E. Schulz, Freiburg i. Breisgau (Germany) : Structure and function of the squalene cyclase

Session 2: SOURCES, TARGETS AND MECHANISMS IN LIPID SIGNALLING

- D. G. Gilchrist, Davis (USA) : Convergent signal pathways link apoptosis to development and disease - the role of sphingolipids and ceramides in plants
- J. H. Tumlinson, Gainesville (USA) : Volicitin-lipid derived signals in plant-insect interactions
- I. Feussner, Gatersleben (Germany) : Metabolite profiling in plant lipid metabolism
- R. Wetzker, Jena (Germany) : Signalling via phosphoinositide 3-kinases
- S. Cockcroft, London (UK) : The requirement and function of phosphatidylinositol transfer proteins in regulated exocytosis
- Y. A. Hannun, Charleston (USA) : Cell signalling by sphingolipids
- W. H. Moolenaar, Amsterdam (The Netherlands) : G-protein signalling by lysophospholipids
- M. J. O. Wakelam, Birmingham (UK) : Diacylglycerols and phosphatidates in cell signalling

Session 3: MEMBRANE INTEGRITY AND TRAFFICKING (Part 1)

- T. H. Söllner, New York (USA) : The molecular machinery of membrane fusion
- E. M. Bevers, Maastricht (The Netherlands) : Pathophysiological significance of asymmetric transmembrane phospholipid distribution
- K. Simons, Heidelberg (Germany) : Role of rafts in membrane trafficking
- J. E. Schnitzer, San Diego (USA) : Caveolae as integration sites for cell surface signalling, mechanotransduction and trafficking

Special Lecture

- Y. Seyama, Tokyo (Japan): Pathobiochemistry and genetic analysis of Cerebrotendinous Xanthomatosis

Session 3: MEMBRANE INTEGRITY AND TRAFFICKING (Part 2)

- S. S. Ambudkar, Bethesda (USA) : Biochemical mechanism of action of multidrug resistance-linked ABC transporters and the role of membrane lipids in their function
- M. Dean, Frederick (USA) : Evolution and clinical significance of ATP-binding cassette transporter genes
- J. Gruenberg, Geneva (Switzerland) : The role of lysobisphosphatidic acid in the regulation of endosome structure and function
- J. Seelig, Basel (Switzerland) : Interaction of Alzheimer β -Amyloid peptide with lipid membranes

Session 4: HOT TOPICS

- G. Schmitz, Regensburg (Germany) : The ATP-cassette transporter-1 gene is mutated in HDL-deficiency syndromes: Lessons for the protective role of HDL in atherosclerosis
- D. Ricquier, Meudon (France) : Uncoupling proteins
- A. D. Miller, London (UK) : Cationic lipids for gene therapy: Do we understand?

血小板活性化因子(PAF)とその他の脂質メディエーターに関する第7回国際会議

帝京大学薬学部

和久敬三

国際 PAF 会議は 1983 年 J. Benveniste によりパリで第 1 回会議が開かれて以来、2-3 年おきに 6 回開催され、その第 3 回会議は野島先生を委員長として 1989 年東京で行われています。その第 7 回会議が 2001 年に東京で開催されることがニューオリンズで開かれた第 6 回会議のときに決まりました。脂質メディエーターの研究は PAF 以外の分野でも最近非常に発展していますので第 7 回会議では以下に示すようなより広い分野が対象となる予定です。内容的にもかなりエキサイティングなものになると思われますので、日本脂質生化学研究会の先生方に是非とも多く参加して頂きたいと思います。以下にその概略を掲載します。

Seventh International Congress on Platelet-Activating Factor and Other Lipid Mediators

September 24 (Monday)-27 (Thursday), 2001

Waseda Univ., International Conference Center

Shinjuku-ku, Tokyo 169-0071, Japan

Registration Fee: 35,000 Yen (Student, 10,000 Yen)

Theme: Platelet-Activating Factor
Lysophosphatidic Acid
Leukotrienes and Lipoxygenases
Prostaglandins and Cyclooxygenases
Anandamide and 2-Arachidonoylglycerol

Organizing Committee:

Shoshichi Nojima (Honored Chairperson)

Keizo Waku, Teikyo Univ. (Chairperson)
 Keizo Inoue, Univ. of Tokyo
 Takao Shimizu, Univ. of Tokyo
 Sei-itsu Murota, Tokyo Medical and Dental Univ.
 Sohei Makino, Dokkyo Univ. School of Medicine
 Terumasa Miyamoto, Japan Clinical Allergy Research Institute
 Yutaka Mizushima, St. Marianna Univ. School of Medicine
 Nicolas G. Bazan, LSU School of Medicine
 Edward J. Goetzl, Univ. of CA-SF
 Stephen M. Prescott, Univ. of Utah
 Gabor Tigyi, Univ. of Tennessee
 Santosh Nigam, Univ. Med. Centre Benjamin Franklin
 Ewa Ninio, Inserm U321

On 6th PAF meeting (New Orleans, 1998), we agreed to change the title of the meeting as PAF and other lipid mediators symposium, because much progress has been done in the field of several lipid mediators' research.



第4回 国際脂肪酸・脂質学会のご案内

【ISSFAL 2000】

<<http://www.toyama-mpu.ac.jp/riw/clinicap/issfal2000.html>>

- ◇ 会 議 の 名 称 ◇ 第4回国際脂肪酸・脂質学会 【ISSFAL 2000】
4th Congress of the International Society for the Study of Fatty Acids and Lipids
- ◇ 会 期 ◇ 平成 12 年 6 月 4 日 (日) ~ 9 日 (金)
- ◇ 会 場 ◇ つくば国際会議場
〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3
- ◇ 主 催 ◇ 第4回 国際脂肪酸脂質学会組織委員会
- ◇ 委 員 会 会 長 ◇ 浜崎 智仁
富山医科薬科大学和漢薬研究所
〒930-0194 富山県富山市杉谷 2630
- ◇ 国際母体団体 ◇ 国際脂肪酸脂質学会
- ◇ 後 援 ◇ 日本脂質栄養学会
- ◇ 参加登録費 ◇ 事前: 一般 40,000円 学生 20,000円
当日: 一般 50,000円 学生 30,000円
- ◇ 会 議 構 成 ◇ プレナリーセッション、カレントセッション、
ポスター発表
- ◇ 主 な テ ー マ ◇ ① 脂質代謝、代謝異常、アナンダマイド、リピッドメディアーター、脂質と膜
② 脂質と癌、脂質と糖代謝異常、脂質と心血管疾患、脂質と炎症、脂質と行動、脂質と精神疾患
③ 脂質と乳幼児の栄養、適性n-6/n-3比、n-3添加食品
- ◇ 会 議 使 用 語 ◇ 英語 (プレナリーセッションは日本語同時通訳あり)
- ◇ 懇 親 会 ◇ 6月7日 (水) 19:00 ~ 参加費: 7,000円
筑波第一ホテル アネックス [昂の間]
つくば国際会議場より徒歩10分
- ◇ 宿 泊 関 係 ◇ つくば国際会議場周辺の各ホテルをご用意しております。
お申し込み・お問い合わせは事務局までお願いいたします。
- ◇ お 問 合 せ 先 ◇ 〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2-10
神田司町 APビル 9F
第4回 国際脂肪酸脂質学会事務局 (担当: 石川)
Tel: 03-3257-3791 Fax: 03-3257-3795
Email: issfal@jtbcom.co.jp

会の活動状況

1 第41回日本脂質生化学研究会・研究集会の開催

実行委員長：玉井洋一教授（北里大学・医学部）

日時：平成11年6月3日（木）、4日（金）

会場：鎌倉市 鎌倉プリンスホテル

演題数：特別講演1題、シンポジウム5題、一般演題79題

参加数：271名

研究集会は落ちついたたたずまいを見せる古都鎌倉の鎌倉プリンスホテルで開催されました。一般講演に加え、箱守仙一郎教授による特別講演、5名の演者によるシンポジウムなど、研究集会は大変盛会のうちに終わりました。玉井洋一実行委員長を始め、教室のスタッフの方々から心暖まるお世話をいただきました。厚くお礼申し上げます。研究集会活動につきましては、別掲の実行委員長の報告をご覧ください。

2 第41回日本脂質生化学研究会総会

平成11年6月3日（木）午後5時15分より、鎌倉プリンスホテルのバンケットホール七里ヶ浜において開催された。

総会次第

脊山洋右会長の挨拶の後、第41回研究集会実行委員長玉井洋一教授の挨拶に引き続き、以下の議事が進行された。

議事

(1) 平成10年度事業報告及び決算報告

平成10年度の事業及び決算が配付資料に沿って報告された。研究会事務局の業務は通常どおり円滑に進んでいるとの報告がなされた。決算については収支がほぼ均衡しており、健全財政であるとの報告がなされた。

(2) 平成10年度決算報告につき監査の結果が報告され、承認された。

(3) 平成11年度事業計画案

平成11年度における、第41回日本脂質生化学研究会・研究集会、第40巻脂質生化学研究（要旨集）の発行、脂質生化学研究 Circular 1999の発行、第41回総会、平成11年度第1回および第2回幹事会の事業計画案が説明され、承認された。

(4) 平成11年度予算案

ほぼ例年通りの平成11年度予算案が提案され、承認された。

(5) 実情に即した会則の改定が提案され、承認された。（会則参照）

(6) 新幹事・名誉会員について下記の事項が承認された。

- イ) 新幹事の就任（平成11年1月1日～平成14年12月31日迄）
青山俊文（信州大・医）、五十嵐靖之（北海道大・薬）、和泉孝志（東京大・医）、黒木由夫（札幌医大）、平林義雄（理化学研究所国際フロンティア）
- ロ) 平成11年12月31日任期終了予定の幹事の再任（平成12年1月1日～平成15年12月31日迄）
- ハ) 箱守仙一郎（ワシントン大学・Pacific Northwest Research Institute）が名誉会員に推薦され、承認された。

(7) 平成12年度（第42回）研究集会の準備状況の報告

実行委員長：古賀洋介教授（産業医科大学・生体物質化学教室）

日時：平成12年6月16日（金）、17日（土）

会場：北九州国際会議場

実行委員長より研究集会の日時、会場、また企画しているシンポジウムなどの内容について報告があった。

(8) 平成13年度（第43回）研究集会の実行委員長の選出

平成13年度研究集会の実行委員長に中野益男教授（帯広畜産大・生物資源化学）が選出された。

(9) 和久敬蔵教授(帝京大・薬)より、国際PAFおよび生理活性脂質会議・第7回大会の開催(平成13年9月24日～27日、東京)について説明があり、日本脂質生化学研究会がこれを協賛することが了承された。

3 平成11年度第1回幹事会

平成11年6月3日(木) 鎌倉プリンスホテルのレストラン「ななかまど」において開催された。出席者55名(氏名略)。総会に提案すべき事項を審議した。議事内容は、総会と同じ。

4 平成11年度第2回幹事会

平成11年11月29日(月) 午後6時より、学士会館赤門分館会議室で開催された。

出席者：脊山洋右(会長)、清水孝雄(庶務幹事)、山田信博(会計幹事)、植田伸夫(会計監査)、山川民夫、内藤周幸、野島庄七(以上名誉会員)、赤沼安夫、赤松穰、阿部敏明、五十嵐靖之、石塚稲夫、和泉孝志、川口昭彦、工藤一郎、古賀洋介、菅野道廣、鈴木明身、瀬高守夫、竹縄忠臣、玉井洋一、西島正弘、平林義雄、村田紀夫、山田晃弘、和久敬蔵(以上、計26名)

議事

1) 平成11年度事業報告

①会員数 正会員770名(平成11年11月1日現在)
(但し、平成11年1月～11月 新入会21名・退会15名)
名誉会員16名(事業計画の項参照)
賛助会員15社(39ページ参照)

役員 会長 脊山洋右(平成12年12月31日迄)
庶務幹事 清水孝雄(同上)
会計幹事 山田信博(同上)
会計監査 植田伸夫(同上)
幹事 平成12年度事業計画の項参照

②事業

イ) 平成11年度(第41回)研究集会の開催

実行委員長 北里大学・医学部・生化学教室 玉井洋一教授
日時 平成11年6月3日(木)、4日(金)

会場 鎌倉市・鎌倉プリンスホテル
演題数 特別講演1題、シンポジウム5題、一般79題
参加数 271名(参加費納入者)

ロ) 脂質生化学研究41巻の発行(本文334頁)

ハ) 脂質生化学研究Circular 1999の発行(本文39頁)

ニ) 総会及び幹事会の開催

総会 平成11年6月3日(木) 鎌倉プリンスホテル
第1回幹事会 平成11年6月3日(木) 鎌倉プリンスホテル
第2回幹事会 平成11年11月29日(月) 学士会館赤門分館

③ 新幹事・名誉会員について

第41回日本脂質生化学研究会総会(平成11年6月3日)において総会議事(6)のように新幹事・名誉会員が承認された。

2) 平成11年度決算報告 (決算表参照)

決算表に基づいて説明がなされ、承認された。

3) 平成12年度事業計画

①会員数 正会員微増の見込み

②役員 会長 脊山洋右(任期平成12年12月31日迄)
庶務幹事 清水孝雄(同上)
会計幹事 山田信博(同上)
会計監査 植田伸夫(同上)

③幹事

(任期 平成12年12月31日迄)

上田隆史、加納英雄、賀佐伸省、北 徹、楠瀬正道、斉藤恵実、菅野道廣、武内 望、武富 保、秦 葭哉、飯田静夫、平山 修、藤本健四郎、堀内正公、松沢佑次、三成 脩、三輪匡男、保田立二、山下 哲、山田晃弘、山本徳男、吉岡 亨、渡辺清博

(任期 平成13年12月31日迄)

猪飼 篤、池沢宏郎、石塚稲夫、石橋輝雄、伊藤精亮、大木和夫、鬼頭 誠、古賀洋介、里内 清、瀧 孝雄、竹縄忠臣、田辺 忠、保坂公平、室伏きみ子、村田紀夫、矢野郁也、山本尚三、横山信治

(任期 平成 14 年 12 月 31 日迄)

赤松 稔、岩森正男、宇田 裕、内海英雄、工藤一郎、島崎弘幸、鈴木康夫、瀬高守夫、高桑雄一、高野達哉、塚谷博昭、二木鋭雄、西島正弘、宮澤陽夫

(任期 平成 15 年 12 月 31 日迄)

青山俊文、赤沼安夫、秋野豊明、阿部敏明、荒木英爾、有田 斎、安藤 進、五十嵐靖之、猪川嗣郎、和泉孝志、板倉弘重、市原宏介、伊藤俊洋、井上圭三、入谷信子、遠藤 章、大島美恵子、岡田伸太郎、岡本光弘、奥田拓道、奥山治美、小野輝夫、川口昭彦、菊川清見、黒木由夫、齊藤政樹、渋谷 勲、杉田陸海、鈴木明身、谷口直之、玉井洋一、中川靖一、中野益男、西村顕治、野沢義則、野間昭夫、平林義雄、廣野治子、水柿道直、和久敬蔵

(以上 95 名)

名誉会員

山川民夫(名誉会長)、数野太郎、金田尚志、児島英也、齊藤国彦、内藤周幸、永井克孝、野島庄七、野田万次郎、箱守仙一郎、林 陽、藤野安彦、牧田 章、松本 亮、山添三郎、山本 章

(以上 16 名)(今井 陽、逝去)

④事業

イ) 平成 12 年度(第 42 回)研究集会

実行委員長 : 古賀洋介 教授(産業医科大学・生体物質化学教室)

日時 : 平成 12 年 6 月 16 日(金)、17 日(土)

会場 : 北九州国際会議場

ロ) 脂質生化学研究 42 巻発行

演題募集(Circular 2000 の発行時) : 2 月上旬

演題申込および原稿締切 : 3 月 31 日

プログラム編成会議 : 4 月中旬

入稿 : 4 月下旬

講演集発送 : 5 月中旬

ハ) 脂質生化学研究 Circular 2000 の発行 : 2 月上旬

ニ) 会議

日本脂質生化学研究会総会 : 平成 12 年 6 月 16 日

第 1 回幹事会 : 平成 12 年 6 月 16 日

第 2 回幹事会 : 平成 12 年 11 月中旬

4) 平成 12 年度予算 (38 ページ参照)

予算表に基づいて説明がなされ、承認された。なお、研究集会の参加費に学生会費を設けることが提案され、研究集会補助を 90 万円に増額した。

5) その他

1) 幹事の推薦があった。

2) 名誉会員の推薦について議論された。

3) 名誉会員の幹事会への参加について、会則の改定が提案された。

4) 日本脂質生化学研究会の脂質情報データベース作製委員会による科学研究費補助金・研究成果公開促進費への申請が平成 12 年度に限り認められた。

5) 村田紀夫幹事より、第 15 回国際植物脂質シンポジウム(平成 14 年 5 月 12 日～17 日、岡崎)の説明があり、日本脂質生化学研究会がこれを協賛することが承認された。



○平成11年度決算表及び平成12年度予算表

収入の部	平成11年度		平成12年度
項目	予算	決算	予算
正会員会費	2,388,000	2,291,000	2,310,000
入会金	80,000	52,000	50,000
賛助会員会費	640,000	570,000	620,000
講演集売上	150,000	180,000	180,000
広告収入	1,000,000	933,450	1,000,000
利子	1,000	18,087	1,000
寄付金	0	0	0
雑収入	0	108,160	50,000
小計	4,259,000	4,152,697	4,211,000
前年度よりの繰越金	2,548,724	2,548,724	3,167,702
計	6,807,724	6,701,421	7,378,702

支出の部	平成11年度		平成12年度
項目	予算	決算	予算
研究集会補助	800,000	800,000	900,000
会報製作費	130,000	110,534	130,000
講演集製作費	1,350,000	703,752	750,000
旅費	120,000	51,000	200,000
郵送料・通信費	450,000	398,687	450,000
事務用品費	100,000	178,261	100,000
会合費	200,000	364,426	250,000
謝金	50,000	20,000	50,000
総会経費	5,000	0	5,000
事務経費	250,000	209,265	250,000
事務委託費	720,000	677,019	720,000
雑費	50,000	20,775	50,000
小計	4,225,000	3,533,719	3,855,000
次年度への繰越金	2,582,724	3,167,702	3,523,702
計	6,807,724	6,701,421	7,378,702

賛助会員

- (10口) エーザイ(株)
- (5口) 大日本製薬(株)
塩野義製薬(株)
キッセイ薬品工業(株)
- (4口) 三共(株)
住友製薬(株)
藤沢薬品工業(株)
山之内製薬(株)
- (3口) (株)資生堂
(株)東京化学同人
東京田辺製薬(株)
雪印乳業(株)
(株)エー・イー企画
- (2口) 花王(株)
大塚製薬(株)
萬有製薬(株)

(以上16社・62口)

日本脂質生化学研究会 会則

第1条 名 称

本会を日本脂質生化学研究会 (The Japanese Conference on the Biochemistry of Lipids, JCBL) と称する。

第2条 目 的

本会は脂質の領域における化学的、生化学的研究の発展と向上を図り、あわせて研究者相互の連絡および親睦を深めることを目的とする。

第3条 事 業

本会は、第2条の目的を達成するために、次の事業をおこなう。

- (1) 研究集会の開催
- (2) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第4条 会 員

本会の会員には次の種類がある。

- (1) 正会員は、脂質の化学的、生化学的研究に従事し、本会で定めた会費を納入する者。
- (2) 賛助会員は、本会の目的に賛同し、本会を維持することに協力し、本会で定めた会費を納入する者。
- (3) 名誉会員は、幹事会の推薦により、総会の承認で決定される。名誉会員の会費は免除される。

第5条 役 員、幹 事、名 誉 会 長

- (1) 本会は、その運営のために、役員として会長1名、庶務幹事1名、会計幹事1名、会計監査1名をおき、役員会を構成する。
- (2) 本会の運営上の重要事項について役員会の諮問に応ずるものとして幹事をおく。
- (3) 役員および幹事は幹事会を構成し、会務の一切を処理する。幹事会は決定事項を総会に報告し、その承認を得るものとする。
- (4) 名誉会長をおくことができる。名誉会長は幹事会に出席して意見を述べることができる。

- (5) 会長、庶務幹事、会計幹事、会計監査の任期は2年とし、幹事の任期は4年とする。重任はさまたげない。

第6条 総 会

総会は、会長がこれを招集し、次の事項を審議し、決定または承認する。決定または承認は、総会出席者の半数以上の合意を必要とする。

- (1) 予算および決算に関する事項
- (2) 幹事会の提案事項
- (3) 幹事会の決定に関する承認事項
- (4) その他

第7条 経 理

本会を運営するために、次の如く経理をおこなう。

- (1) 本会の事業年度は、毎年1月1日より12月31日とし、予算および決算を会報に掲載する。
- (2) 経理は、会計監査によって監査される。
- (3) 当該年度の経理状況は、総会に報告され、その承認を得るものとする。
- (4) 本会の経費は、会費および寄附金による。

第8条 事 務 局

本会は会務に関する一切の事務をおこなうために事務局を置き、庶務幹事がこれを運営して、会員に便宜を供する。

附 則

- (1) 本会則は、総会の承認を経て変更することができる。
- (2) 本会の会費は、幹事会で決定し、総会の承認を得るものとする。

(平成11年6月3日改訂)

研究会事務の取り扱い内容と連絡先

[I] 日本脂質生化学研究会事務局で扱う事務

1. Circular の原稿依頼・編集等
2. 研究集会の演題受付
3. 要旨集の原稿受付・編集等
4. 総会・幹事会の案内・資料作成等
5. その他

連絡先：

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学医学部代謝生理化学教室内
日本脂質生化学研究会事務局
Tel & Fax : 03-5684-4958

[II] (財)日本学会事務センターで扱う事務

1. Circular および要旨集の発送とその未着クレームの受付
2. 年会費の請求および徴収
3. 所属・住所・氏名等の変更の受付
4. 入会・退会の受付

連絡先：

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
(財)日本学会事務センター会員業務部
Tel : 03-5814-5810
Fax : 03-5814-5825

編集後記

DTPソフトを用いた慣れない編集作業のため多くの方にご迷惑をおかけしました。また、原稿依頼とその取りまとめに不手際があったことをお詫びします。この冬一番の冷え込みで、冬晴れの日ですが、大学構内は建築ラッシュで、景色を楽しむ気分になれないのが残念です。(TI)